

O1-061

[演題取下げ]

O1-062

日常感染症で入退院を繰り返すこども・家庭に関する分析

渡邊 由佳、圀府寺 美、木野 稔

社会医療法人真美会中野こども病院

【はじめに】

当院は地域の一次・二次救急を担う小児科病院であり、様々なこども・家族が受診に訪れる。主たる疾患は日常感染症によるものであるが、医療を軸に心身両面からサポートできるよう多職種で関わっている。

【目的】

日常感染症で入退院を繰り返すこども・家庭の特性分析を行い考察する。

【対象と方法】

2015年1月1日から2015年12月31日までの1年間、入院患児の中で複数回入退院を繰り返した症例を抽出し、入退院の繰り返しを4回以上として、その特性についてカルテを用い後方視的に分析した。

【倫理的配慮】

症例に関しては個人を特定できないようデータ化し処理をした。

【結果】

入院患児数は3,646症例(3,113名)で、2歳未満が1,878症例(51.5%)であった。複数回入院患児数は897症例(364名、24.6%)で、内4回以上入院(有効数)は177症例(35名、4.8%)、2歳未満が120症例(67.8%)であった。平均在院日数は全体が7.9日、4回以上入院は9.2日であった。入院疾患はともに呼吸器系感染症が最も多かった。入院形態は全体では付き添いなし1459症例(40.0%)で、4回以上入院は付き添いなし138症例(78.0%)であった。保険の種類は生活保護の比率に違いがみられ、全体で146症例(4.0%)、4回以上入院では34症例(19.2%)であった。MSWが行う地域連携および家族面談は、全体で141名(4.5%)、4回以上入院では18名(51.4%)であった。4回以上入院のリスク因子として、こどもに関して「低出生体重児」25.7%、「基礎疾患」25.7%、環境として「経済的問題」20.0%、「ひとり親」17.1%、「多子家庭」14.3%、その他「軽症であるが入院希望が強い」、「ワクチン不十分」、「体重増加不良」、「保護者の基礎疾患」などがあった。

【考察】

4回以上入院の症例は2歳未満の乳児で約7割を占め、「低出生体重児」や「基礎疾患」、「多子家庭」、「ワクチン不十分」など、こどもや環境因と相まって乳児期に感染症が繰り返されていると考えられる。感染症を繰り返したとき、「ひとり親」や「多子家庭」などから、「付き添いなし入院」が多くなるといえ、「軽症であるが入院希望が強い」ことから、入退院が繰り返されることが一つのリスクであるといえる。入退院を繰り返すこども・家庭には地域連携や家族面談などMSWが関わる機会も多くなり、入院が子育て支援の一面を持っており、退院後の地域生活においても継続した支援が必要である。